

令和2年度 大阪府立高槻支援学校 第2回 学校運営協議会記録

令和2（2020）年10月16日（金） 10：00～12：00

於：本校図書室

構成：＜委員＞伊丹昌一（会長）、内本繁（副会長）、山田義昭、福井勇、矢野雅哉、森脇祥子

＜学校＞彌永校長

＜事務局＞原田事務長、山村教頭、加藤教頭、中村首席、田中裕主席、藤本首席

掛田（首席）部主事、河合部主事、吉岡（首席）部主事

- 1 授業見学
- 2 校長あいさつ
- 3 事務局からの報告事項
 - ① 保護者からの意見書について
 - ② 学校経営計画の進捗状況について
 - ③ 使用教科書について
 - ④ 学校教育自己診断の実施について
 - ⑤ 高等部3年生の進路希望状況について
- 4 質疑及び協議
- 5 その他
- 6 校長あいさつ

＊上記の通り、報告等を行い、各委員より次のような意見、質問等をいただいた。

＜②学校経営計画の進捗状況について＞

- ・「教育と福祉の連携」について、「放課後等デイサービス事業所との懇談会の実施」について、現状ではむずかしい側面もあると思うが、引き続きさまざまな形で連携を図っていただきたい。

＜③使用教科書について＞

- ・支援学校の教科書を知ることができ、貴重な機会をいただけてよかった。
- ・文字の学習が進んでいる子ども、計算の得意な児童生徒も多く在籍している。教員による学習材の工夫を進められていると思うが、地域の小・中学校で活用されているような副教材を本校活用できるシステムを研究していただきたい。

＜④学校教育自己診断について＞

- ・診断項目2の「知的障がい校としての専門性の向上に努めている」について、児童生徒の障がいの状況が複合的となっている現状から、「知的障がい校」という位置づけでよいかとの問題提起が委員からあり、会長から「本校は伝統的かつ先進的に『知的障がいの専門校』としての役割を果たしてきた側面がある。事務局が提示した表現でよいと考える」との意見があった。
- ・診断項目14の「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」について、その浸透度はどの程度か、との質問が委員からあり、事務局から、つぎのように回答があった。『個別の教育支援計画』については、家庭訪問等を活用して保護者と内容を共有し、保護者と担任とがともに児童生徒の個々の長期的、短期的な目標を設定しているので、十分に浸透していると考えられる。」また、保護者委員から「『個別の指導計画』は、学期ごとの各教科の学習内容や目標、取組、評価等について詳細に記述されている。『個別の教育支援計画』は、どのような関係機関や医療機関と連携しているか、などについても記述があり、その子どもの全体像や、数年間かけてどのような力をつけていくかといった長期的な

目標を示したものである。どちらも保護者と学校とが一緒に相談しながら作っているので、周知はされていると思う。」との補足意見があった。

- ・診断項目で、多くの保護者から「分からない」と回答されている質問項目がいくつかあるが、保護者が、その実態を知るすべがない項目（例えば「校長のリーダーシップ」についての質問）については、割愛してもよいのではないか、との意見があった。
- ・「ICT環境の整備」など、「分からない」という回答が多いが、学校の見解を伺い、との意見があり、校長がつぎのように回答した。『GIGAスクール構想』が文部科学省から示され、大阪府でも児童生徒一人に一台ずつPC及びタブレット端末を支給するという事業が始まっている。本校においても、現在そのための回線整備等を進めている。オンラインでの学習等も少しずつ始まってきており、「ICT環境の整備」についても保護者の皆様に実感いただける機会が増えていくのではないかと考えている。」
- ・「オンラインによる学習」については、支援学校向けの教材等がすでにあるのか、と委員から質問があり、校長がつぎのように回答した。『G Suite for Education』というシステムの導入が進められており、動画の視聴や課題への解答などを双方向でやりとりできるよう、研究が進められている。さらに事務局からもつぎのように補足した。「本校のWebページにもリンクを貼ってすぐに活用できる学習アプリ等の教材を紹介している」。

《⑤進路希望状況について》

- ・委員から、長期的に欠席している生徒の進路指導の進め方について質問があり、事務局からつぎのように回答した。「今年度は、新型コロナ感染症予防対策に取り組みながら、継続的な支援を進めてきた。とくに企業、事業所等での実習については、生徒のモチベーションを高め、卒業後の進路先として、自分に適しているのかを考えさせながら、進路選択について支援している。」

《運営協議会全般に関して》

- ・卒業後の生徒たちの「居場所」「働く場所」の選択肢を、これからも広げていこう、という取組が、自治体で進められている。空き地や空き施設を有効活用し、新たな就労施設の誘致に尽力したいと考えている。
- ・本日は、支援学校の児童生徒の様子を初めて見ることができ、さらにさまざまな校内環境の整備の様子、生徒たちの作品制作へ教員が熱心に指導している様子などを見ることができて、大変勉強になり、ありがたかった。
- ・例年ならば、委員が教室に入っていった授業見学をさせて頂いたりしていたが、今年のように外から見学するようにすれば、子どもたちへのプレッシャーも少なくなつてよかったのではないかと。
- ・管理職の異動があっても、今後も地域とのつながりを継続していただきたい。
- ・高槻市では「障がい者基本計画」及び「福祉計画」の新制度が実施され、さまざまな取組を「数値化」していくという流れが始まっていることをお伝えする。
- ・緊急時における、障がいのある人たちの「居場所の確保」「相談体制の整備」等が喫緊の課題であり、この4月から障がいのある人たちの「地域生活拠点」の整備が進められている。その動きも学校として把握していただきたい。
- ・PTAとして「防災マスターチーム」を発足させ、活動を始めている。災害時に、障がいのある子どもたちを抱えて、保護者が災害等をどう乗り切っていくかという課題について勉強会などを開いて検討している。有志の会であるが、そこを柱にして本校全体で防災対策について取り組んでいき

たいと考えている。今回のコロナ禍で長期的な休校措置になった。このような時に障がいのある子どもたちがどう過ごしていくのかについて、事業所等と連携した「子どもの居場所づくり」を含め、必要な体制の整備を望んでいる。

- ・コロナ禍での学校の対応等に関して、本校の教職員のみなさんは、よくやっておられると思っている。今後も学校としてのさまざまな取組に自信をもって推進していただきたい。